

## 硫黄島の歴史 (攻防戦)

硫黄島は、東京からはほぼ真南に1,250km（北海道稚内より更に遠い）あり、1543年（天文12年・先号如輪だより略年表「金杉城・高根城・夏目城建立の記録あり」時代にスペイン人により発見され無所属の島として放置されていたが、明治24年日本領土として編入された。それ以前から漁業（鱒鮭）の寄港地として利用していた。明治9年には71名が、明治31年に開拓し、同34年には31戸112名となり大正時代に入ってからは、硫黄・燐光等の採掘及び砂糖きび、薬用植物が栽培され、大正9年の糖価暴落以降一時製糖関係は中止していたが、昭和14年には国の砂糖総生産量の六割が硫黄島であった。曾てサイパン・グアムのマリアナからパラオ・マーシャル諸島等は、第一次世界大戦でドイツから得て、日本が「委任統治領」として治めていた領土である（戦前までの世界地図には、満洲・朝鮮・台湾・樺太下は日本の赤色で表示）日本爆撃のB29発進地グアムとの中間地点で、B29の不待着基地・復讐戦開戦の発着基地として硫黄島確保が目的。第二次大戦では、海軍の飛行場が置かれ重要戦略拠点となり、昭和19年島を要塞化する目的で7月島民の強制疎開開始。

指揮官 小笠原兵団長「東京 艦」  
 栗林志道 明24.7 第26 長野 騎兵科  
 米田駐在3年・カナダ武官2年  
 西竹一 明35.7 鹿児島 騎兵科  
 ロス五輪 金 戦車26連隊長  
 兵力 22,000名（海7,300含む）  
 噴進砲と呼ばれたロケット砲40を含む  
 171門、対戦車90門  
 弾薬・軽戦車12台含む戦車23両  
 洞窟・トーチカ総延長 18km  
 爆撃・艦砲射撃に耐える  
 壕等の深さ 20~30m



※ 3月4日の東京大空襲を皮切りに各都市の空襲が始まった。

10日 334機 東京 11日 130機 名古屋 13日 90機 大阪 25日 130機 名古屋